



気仙沼管内の宮城県公所が取り組んだ事業や催事などを四半期ごとに紹介します。

◆◆ 主な内容 ◆◆

- 気仙沼地方振興事務所 総務部：新気仙沼合同庁舎開庁記念式・開庁記念講演会を行いました
- 気仙沼地方振興事務所 農業振興部：「サワールージュ」の加工研修会が開催されました ほか
- 気仙沼地方振興事務所 林業振興部：三陸リアスの森保全対策事業の実施状況について ほか
- 気仙沼地方振興事務所 水産漁港部：気仙沼大川でさけの捕獲が始まりました ほか
- 気仙沼地方振興事務所 地方振興部：気仙沼管内所長・部長会による管内視察を行いました ほか
- 気仙沼高等技術専門校：平成29年度第2回オープンキャンパスを開催しました
- 水産技術総合センター気仙沼水産試験場：「浜と水試の情報交換会」を開催しました

新気仙沼合同庁舎開庁記念式・開庁記念講演会を行いました (気仙沼地方振興事務所 総務部)

10月17日に気仙沼合同庁舎の新庁舎完成に伴う開庁記念式を執り行われ、当日は、村井嘉浩知事、中島源陽県議会議長、菅原茂気仙沼市長など関係者約60名が出席しました。

新庁舎は、備蓄倉庫や太陽光発電システムを設置するなど、圏域での防災拠点機能を備えながら、間取りや設備はシンプルで利便性の高いことが特徴です。

また、10月20日には開庁記念講演会を大会議室で行いました。自治法派遣職員や今年度に入り気仙沼管内へ異動してきた職員を対象に、「気仙沼市の挑戦 震災復興×地方創生」と題し、気仙沼地域の現状や震災復旧・復興への施策について、大森克之地方振興事務所長と菅沼真澄気仙沼市副市長から講演いただきました。大森所長は、気仙沼・南三陸地域の現状と将来の見通しについて管内の人口や学校、福祉、産業のデータを基に分析しながら、「地域の社会システムを維持するためには、多面的に思考し、変わり続けることが重要」と職員の意識改革を求めました。菅沼副市長は震災以降の気仙沼市が取り組んでいる施策について体系的に講演いただき、結びには、自身も国土交通省からの出向により気仙沼市で生活していることを踏まえ、「一緒に気仙沼を楽しみましょう」と自治法派遣職員へエールの言葉をいただきました。



村井知事による式辞



テープカットの様子



菅沼副市長による講演

宮城県オリジナルりんご品種「サワールージュ」の加工研修会が開催されました (気仙沼地方振興事務所 農業振興部)

「サワールージュ」は、宮城県農業・園芸総合研究所で育成された、スイーツの材料として売り出し中のりんごです。酸っぱいりんごの代名詞となっている「紅玉」並の酸味を有し、「紅玉」よりも収穫時期が3週間程度早く、病害虫や生理障害が出にくく栽培しやすいことなどが特徴となっています。

10月5日に、「サワールージュ」の特徴を活かした家庭で手軽に作れるスイーツをテーマとして、JA 南三陸果樹生産部会主催による加工研修会が開催されました。

当日は、宮城県内を中心に料理教室の講師としてご活躍の花澤文乃(はなざわあやの)先生を講師に迎え、JA 南三陸気仙沼農産物直売所「菜果好(なかよし)」の加工部会の方々とともに、揚げアップルパイ、焼きアップルパイを生地から作りました。

アップルパイは焼いたものというイメージが強かったせいか、揚げアップルパイと聞いて驚いている参加者が多く見受けられました。アップルパイは生地から簡単に作ることができるため、家庭でも手軽に作ることができそうです。



研修会の様子



揚げアップルパイ

平成29年産「南三陸米新米試食会」が開催されました (気仙沼地方振興事務所 農業振興部)

10月21日、平成29年産「南三陸米新米試食会」が気仙沼市の JA 南三陸本吉支店で開催されました。「南三陸米」は JA 南三陸管内(気仙沼市、南三陸町、登米市津山町)で生産された「ひとめぼれ」のうち1等米の中から厳選されたブランド米です。

「新米試食会」と併せて「第13回南三陸米図画コンクール表彰式」も開催され、コンクールで入賞した小学生と保護者、関係機関の職員等が出席し、「南三陸米」の新米試食を行いました。

試食会では、「南三陸米」の新米のほか、「南三陸ねぎ」となめこの味噌汁、気仙沼市本吉町産の鶏のからあげ、気仙沼市産のりんごとなし等、気仙沼・南三陸地域の旬の食材が振る舞われました。

参加した小学生は「ご飯がとてもおいしかった。りんごやなしもおいしい。」と話していました。



新米試食会の様子



南三陸米図画コンクールの作品

「シーサイドファーム波路上(株)」でねぎの収穫が始まりました (気仙沼地方振興事務所 農業振興部)

東日本大震災で被災した気仙沼市杉ノ下工区では、復旧した農地で今年度初めて、ねぎの栽培が行われています。地域の担い手である「シーサイドファーム波路上(はじかみ)株式会社(代表取締役 佐藤信行氏)」では、平成29年5月11日にねぎの定植作業を開始し、作付面積は約3haと大規模なものとなりました。

生育期間中、夏の長雨と日照不足による生育の停滞や病害の発生が見られましたが、それを乗り越え10月11日に初収穫を迎えました。収穫されたねぎは建設されたばかりの出荷調整施設に運ばれ、丁寧に調製された後、「南三陸ねぎ」として地元市場を中心に出荷されています。



収穫の様子



出荷調整の様子

「食材王国みやぎ 南三陸ねぎフェア」を開催しました！ (気仙沼地方振興事務所 農業振興部)

気仙沼・南三陸地域の復旧農地で栽培されている「南三陸ねぎ」の知名度向上と消費拡大を目的に、11月11日と12日の2日間、イオン気仙沼店で「食材王国みやぎ 南三陸ねぎフェア」を開催しました。

フェアで提供した「南三陸ねぎ」はシーサイドファーム波路上株式会社が収穫したねぎで、2日間で1,500本を完売しました。

11日の関連イベントでは、南三陸ねぎレシピ集の配布、南三陸ねぎ料理の提案(試食)、南三陸ねぎクイズ、生産者の取組のパネル紹介を実施しました。特に、南三陸ねぎの料理では、「ねぎが甘くておいしい」という多くのご感想をいただき、レシピをお求めになるお客様もいらっしゃいました。

南三陸ねぎを多くのお客様にお届けするため、今後も南三陸ねぎの生産を支援してまいります。



南三陸ねぎ料理の試食



店頭に並べられた南三陸ねぎ

三陸リアスの森保全対策事業の実施状況について (気仙沼地方振興事務所 林業振興部)

東日本大震災で被災した海岸崖地の崩壊地整備と枯木の伐採・除去等を管内 10 箇所で計画し、対策事業を進めてきました。今年度に2箇所が完成していますので紹介します。

1 海岸崖地対策:本吉郡南三陸町歌津字町向地内(寄木)

当該地は、東日本大震災による大津波、その後の波浪等によって海岸崖地が侵食され、安定を失った斜面が崩落を繰り返していました。このため、崩落した土砂が漁場に流出することから対策の実施が望まれていました。対策工事は、山腹斜面を整形し、人工土壌を吹付けて斜面の安定と早期の緑化を図るとともに波浪対策として水際部に消波ブロックを設置しました。



寄木着手前状況



寄木完成状況

2 枯木の伐採・除去対策:本吉郡南三陸町歌津字尾崎地内(尾崎)

当該地は、東日本大震災による大津波や高潮による塩害を受けたため、クロマツの枯死・腐朽が進んでいました。このため、台風等の暴風によって倒れた枯木が海域に流出し、漁業施設等への被害が懸念されることから対策の実施が望まれていました。当事業では、枯木を伐採・玉切のうえ、海域に流出しないよう林内に集積・安置しました。



尾崎着手前状況



尾崎完成状況

ガン・カモ類生息調査(第1回)を実施しました (気仙沼地方振興事務所 林業振興部)

○ガン・カモ類生息調査について

今年も渡り鳥の飛来する季節となりました。

宮城県では、県内におけるガンカモ類の生息状況を把握し、鳥獣保護行政の資料とすることを目的として、環境省が定める「ガンカモ類生息調査実施要領」等に基づき、生息数の現地調査を実施しています。

今シーズンの調査は、11月上旬、1月中旬、3月上旬(H30)となっており、第1回目の調査結果は下記のとおりとなりました。

○調査方法

- (1) 調査日 平成29年11月8日(水) 午前9時から
- (2) 調査箇所 気仙沼市及び南三陸町内のガンカモの飛来地(31箇所)
- (3) 調査員 宮城県気仙沼地方振興事務所林業振興部職員及び自然保護員

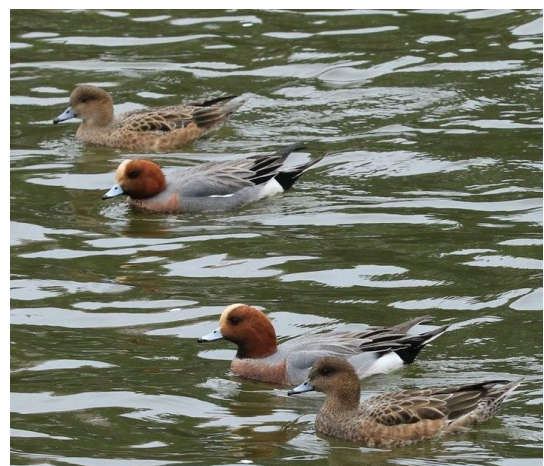
○調査結果

種 類	平成 29 年度		平成 28 年度		備 考
	気仙沼管内	県全体	気仙沼管内	県全体	
ガ ン 類	8	193,495	23	132,335	コガガン
ハ ク チ ョ ウ 類	1	5,083	8	5,854	コハクチョウ
カ モ 類	897	33,189	1,100	46,566	ヒドリガモ, カガモ等
計	906	231,767	1,131	184,755	

- 注) 1 平成 29 年度の管内数値は、11 月 17 日の確定値です(平成 28 年度同期の数値)。
2 県全体の確定値は、11 月下旬頃に宮城県自然保護課のホームページに掲載されます。



調査状況(本吉町の菖蒲沢ため池)



ヒドリガモ

(出典：日本の野鳥識別図鑑)

気仙沼大川でさけの捕獲が始まりました (気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

今年もさけの季節がやってきました。

気仙沼大川鮭漁業生産組合では、さけ資源の維持増大のため「さけふ化放流事業」を実施しています。今年の初捕獲は、10月5日に行われ、初日の捕獲数は121尾(オス79尾, メス42尾)で、体長は70センチほど、重さは3~3.5キロほどと例年並みでした。今年大川に回帰するさけは、稚魚放流数が震災前の水準まで回復した平成25, 26年度に放流されたものが主群となっており、今後、さけの河川遡上が好調となることが期待されます。



捕獲の様子



捕獲したさけ

北部地区漁協女性部連絡協議会料理教室が開催されました (気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

9月25日に小泉公民館において「北部地区漁協女性部連絡協議会料理教室」が開催されました。

市内の飲食店のシェフを招いて洋風料理へのアレンジ方法を学び、沿岸で獲られる食材の新たな食べ方を知り、消費拡大に向けたきっかけにしようと開催されたものです。

料理教室では、唐桑産のホタテガイ、アカザラガイ、シュウリガイを使ったパエリアやアカザラガイを使ったクリーム風コロッセを作りました。同協議会では、浜では和食が多いので洋風の食べ方を知ることができて良かったとの意見もあり、これをもとに各地区で違った活用方法などを考えられればと話していました。



開会の様子



調理の様子



完成したパエリア

気仙沼管内所長・部長会による管内視察を行いました (気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

11月2日に気仙沼管内所長・部長会で、気仙沼市内の現場を視察しました。

今回の視察では、再生可能エネルギーの活用を推進する風力発電所や、再建が進む歴史的建造物、数年後の来遊を目指して取り組むさけ人工孵化場、さらに気仙沼土木事務所が整備を進める大島大橋を巡り、関係者から詳細な説明を受けました。

なかでも、津波による甚大な被害を受けた内湾地区では、国登録有形文化財に指定されている歴史的建造物の再建に取り組む「気仙沼風待ち復興検討会」から、復元された酒屋について説明を受け、管内の復興に向けた歩みを肌で感じた一日となりました。



風力発電所での説明



再建した内湾地区の歴史的建造物にて

インバウンド人材育成事業「英会話セミナー」を開催しました (気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

11月13日に気仙沼市内で、11月29日に南三陸町内で、「英会話セミナー」を開催しました。

このセミナーは、宿泊施設や飲食店などの観光関係事業者が外国人観光客に対する接客への不安を少しでも取り除き、当管内で外国人観光客に対応できる人材を増やすことを目的としています。

当日は、株式会社ライフブリッジ代表取締役の櫻井亮太郎氏と外国人スタッフを講師に迎え、外国人観光客が何を求めているかの説明のあと、発音の矯正、英語フレーズの習得、講師とのロールプレイを行いました。

櫻井氏は、「まずはジェスチャーと表情が大切。その次に言語がくっついてくるんです。」と述べ、受講者はジェスチャーを交えながら、表情豊かに講師とのロールプレイを行っていました。

受講者からは、「大変参考になった」「とても面白かった、楽しみながら学べた」という感想が多くありました。



気仙沼会場の様子



南三陸会場の様子

平成29年度第2回オープンキャンパスを開催しました (気仙沼高等技術専門校)

10月22日、当校において今年度2回目のオープンキャンパスを開催しました。

このオープンキャンパスは、高校生や一般の方々を対象に、身近に技術が学べて就職に有利な資格が取得できる公共の職業訓練校のPRを目的に開催しているものです。

当日は、台風第21号の影響で天候が悪い中、高校生や一般の方々に来ていただき、希望者には、訓練内容や費用、就職先の状況などの説明を行いました。

このほか、自動車整備科では、パワーウィンドウの構造がわかるスケルトンモデルなどの自動車部品等の展示を行うとともに、希望者に対しエンジン組立やエアバック作動の実験を体験していただきました。また、オフィスビジネス科ではパソコンを使ってのカレンダー作りを、溶接科ではガス溶接作業を体験していただきました。

さらに、FCV(燃料電池自動車)の同乗体験や、新たにペーパークラフトのものづくりについても体験していただきました。



自動車整備科
(エンジン組立体験)



オフィスビジネス科
(カレンダー作成体験)



溶接科
(ガス溶接体験)

「浜と水試の情報交換会」を開催しました (水産技術総合センター気仙沼水産試験場)

9月7日、気仙沼水産試験場において平成29年度気仙沼水産試験場「浜と水試の情報交換会」を開催しました。

この情報交換会は、当场が実施した調査等の内容を漁業者や水産関係団体等に報告し、地域水産業の復興に向けて意見交換を行うことを目的としたもので、「へい死を低減させるホタテガイ養殖方法の提案」、「気仙沼湾における貝毒原因プランクトンの調査について」、「県北部海域における磯焼けの状況について」、「あまころ牡蠣生産の取組について」、「食べておいしいタオヤギソウの養殖と今後の流通」、「県北部管内で平成28年度に回帰したシロサケの動向について」の計6テーマについて報告を行いました。



情報交換会の様子

当日は気仙沼市や南三陸町内のほか岩手県等から漁業者はじめ関係者約50人の参加があり、活発な質疑応答が行われるなど有意義な情報交換の場となりました。